

-95-  $^{67}\text{Ga}$ スキャンによる悪性腫瘍の治療の効果に対する考察（感受性を中心に）

神奈川齒大 放，病理

○東 与光，関野政則，久田太郎

横浜響友病院 内，耳鼻，放

中村 功，桜井 栄，加藤秀夫

川崎市立井田病院 放

鈴木慎一

横須賀市民病院 放

伊藤久壽

（目的）： $^{67}\text{Ga}$ スキャンは悪性腫瘍の診断に広く利用され、その報告はきわめて多い。しかし、 $^{67}\text{Ga}$ は悪性腫瘍に非特異的であり、炎症にも取り込まれ、その診断的な意義は定着したと言えよう。今回、私たちは悪性腫瘍の治療にさいして(1)  $^{67}\text{Ga}$ シンチグラムは治療効果を反映するか。(2)  $^{67}\text{Ga}$ シンチグラムは腫瘍の治療に対する感受性（放射線および薬物）と関係があるか、の2点について臨床例ならびに動物腫瘍を用いて検討した。臨床例として、追跡し易い頭頸部腫瘍について治療前後に $^{67}\text{Ga}$ スキャンした症例は今までに約20例である。

（結果）：成績は1例の腺癌を除いてすべて治療後の $^{67}\text{Ga}$ シンチグラムは陰性化あるいは稀薄化した。これらの症例は臨床的にも治療により腫瘍の縮小あるいは組織像で腫瘍細胞の減少、間質の線維増生がみられ、 $^{67}\text{Ga}$ スキャンの結果と一致していた。すなわち、 $^{67}\text{Ga}$ スキャンは治療効果をほぼ反映していると思われた。つぎに悪性リンパ腫の2例において、腫瘍の大きさ、位置がほぼ同じであるのに $^{67}\text{Ga}$ の取り込みに差がある場合には、 $^{67}\text{Ga}$ 陽性像の強い腫瘍は弱い腫瘍より治療効果が大きく、放射線感受性が高いように思われた。また、放射線効果の少ない甲状腺の乳状腺癌では $^{67}\text{Ga}$ の取り込みは少なく、放射線効果の大きい未分化癌や悪性リンパ腫の甲状腺腫瘍では $^{67}\text{Ga}$ の取り込みが多かった。さらに、同一の腫瘍でも、 $^{67}\text{Ga}$ スキャン像で濃淡がみられるとき、 $^{67}\text{Ga}$ の取り込みの多い部位は少ない部位よりも放射線感受性が高い印象をうけた。すなわち、 $^{67}\text{Ga}$ の取り込みの少ない部位の腫瘍は治療しても縮小し難く、組織像をみると、線維増生の強い部位であつた。しかし、放射線感受性が極めて低い悪性黒色腫でも、 $^{67}\text{Ga}$ スキャンで強い陽性像を示し治療により、 $^{67}\text{Ga}$ の取り込みが減少したにもかかわらず、組織像であまり変性のみられなかつた矛盾した症例をも経験している。従つて、単純にすべての腫瘍について、 $^{67}\text{Ga}$ の取り込みと、その感受性とを関係づけることは難しいが、 $^{67}\text{Ga}$ スキャンは治療の効果に示唆を与えるように思われた。今後とも症例を重ねて検討してゆきたい。なお、現在、マウスの動物腫瘍を用いて、治療前後の $^{67}\text{Ga}$ の取り込みを検討中である。